

備中松山城(小松山城跡)地図



天守 (重要文化財)

国内で山城に残っている唯一の天守。天和3年(1683)から残っているといわれています。二層二階の層塔型で、本来は八の平櫓から連なる連結式の天守です。一階には、天守では珍しく囲炉裏がききっており、籠城時の城主の居室である装束の間も設けられています。二階には、御社壇と呼ばれる神棚が祀っております。



二重櫓 (重要文化財)

天守と同様に現存する建物であり、備中松山城内では唯一の二階建ての櫓です。天然の岩盤の上に石垣を築き、二重櫓が建築されています。出入りが二箇所設けられており、有事の際には天守から裏側へ逃げるためのものであった可能性もあります。



大手門跡

小松山城跡への入口にあたる門であり、両脇の櫓台の上に建物が建築され、その下部に門が設けられた櫓門形式の門です。また門の前面にはもみじがあり、春には新緑が、秋には紅葉を楽しむことができ、大手門跡ともみじが織り成す景観は見どころです。



大手門脇の岩盤と石垣

天然の巨岩を石垣の一部にうまく取り込んだもので、備中松山城の最大の特徴です。備中松山城が築かれた臥牛山は、花崗岩質の山であり、花崗岩を上手に残し、石垣の一部として築城されています。岩盤は、天守や二重櫓の基礎にも見ることができます。



段々に連なる石垣群

備中松山城が山の上に築かれていることがよくわかる石垣群です。曲輪ごとに石垣が築かれており、上に向け段々に連なっており、堅固な雰囲気を出しています。



三の平櫓東土堀 (重要文化財)

天守と二重櫓と同様に現存するもので、山城に現存している土堀としては珍しいものです。城内には、もう一箇所、大手門脇の岩盤上に現存する土堀があります。復元した土堀は、この土堀を参考にして復元しています。狭間は、弓を射る矢狭間、鉄砲を撃つ筒狭間があります。



本丸

天守や二重櫓がある曲輪です。かつては天守と二重櫓のみが残っていましたが、平成9年(1997)に五・六の平櫓、南・東御門、土堀などを復元し、往時の姿を想像することができるようになっています。

至彌峠 (中国自然歩道経由)
至彌峠 (防災道路経由)

